

科 目 名
現代社会と法Ⅱ Law Ⅱ

2年 前期 2単位 選択

鈴木 義 孚

【科目区分】

学士課程共通の学習効果との対応：1-(2), 3-(3), (4)
建築学科教育カリキュラムとの対応：

学習・教育目標	JABEE基準1の(1)の知識・能力	コース名	必修／選択の別	授業時間
A	—	建築総合コース	選択	22.5時間
	A 3	建築計画コース		
		建築構造コース		

【概 要】

現代のような複雑な社会組織にあっては、それを規律する法もきわめて技術的専門的にならざるをえない。訴訟をどのような手続きですすめるかを定める訴訟法や、商取引や会社の組織などを規律する商法のごとき領域になると、常識では理解できない面が多い。また、他人の物を盗んではならないという、だれでもその意味を理解しうる規範であっても、細かく考えてみると、他人に預けておいた自分の物を盗んだときはどうなるか。不動産や無体物（電気や動力）は物といえるかなど問題は、常識では解決できないのである。法には常識のみでは理解できない技術面のあることを理解してもらいたい。さらに新聞のスクラップブックをつくることで、情報収集の仕方など自主的な学習を行う際の基本的な情報リテラシーを得られるようにする。

【到達度目標】

- （1）法的知識の習得。
- （2）法的なものの考え方の養成。
- （3）法の技術性、論理性の習得。

【授業計画】

テ ー マ	内 容
① 家族生活と法	家族法の基本原則
② 親族の範囲	血族、配偶者、姻族
③ 婚 姻	婚姻の成立要件、法律婚主義、内縁、夫婦別産制
④ 離 婚	絶対的離婚主義、有責配偶者、財産分与
⑤ 親 子	嫡出子、非嫡出子、認知、親権、後見
⑥ 養 子	特別養子、離縁
⑦ 扶 養	扶養義務者、扶養の順位
⑧ 相 続	相続制度の意味、相続人、法定相続人
⑨ 遺 言	遺言の方式、遺言自由の原則
⑩ 遺 留 分	遺贈、遺留分減殺請求権
⑪ 相 続 税	相続税の仕組、相続財産、課税価額、基礎控除
⑫ 刑 法 理 論	応報刑主義、目的刑主義
⑬ 犯 罪	犯罪の成立要件、罪刑法定主義、刑罰の種類
⑭ 刑 事 裁 判	当事者主義、起訴状一本主義、起訴便宜主義、自白、刑事補償
⑮ 総 括	後期講義のまとめ

【授業方法】

講義の後、問題を出して解答を書かせることがある。

【学習到達度の評価】

- 1) 定期試験。
- 2) 小テスト、レポートで理解度をチェックしながら講義を進める。

【評価方法】

定期試験（80点）、小テスト（20点）

【教 材】

教科書：三好充、鈴木義孚 編著「ポイント法学」嵯峨野書院

【履修上の注意】

法学の領域では、絶対真理というものはないわけであるから、授業で教えられた知識をそのまま受け取りそれを記憶するのではなく、既成の事実をまず疑い自ら考えることが大学で学ぶ第一歩であることを念頭においてもらいたい。